



SMFLみらい・東芝ESS

FIP利用で協業

SMFLみらいパートナーズ（東京都千代

田区、寺田達朗社長）は、再生可能エネルギーの市場価格連動型制度（FIP）の利用で

固定価格買取制度（FIT）からFIPへの切り替え手続きを始めた。

東芝エネルギーシステムズ（東芝ESS、川崎市幸区、四柳端社長）と協業する。

FIPへの切り替えを予定する発電所は古賀ソーラーパークII（福岡県新宮町）と青柳ソーラーパークII（同古賀市、写真）。

第1弾として、SMFLみらいパートナーズが保有する2カ所の太陽光発電所について、再生可能エネルギー

9月からのFIP適用開始を目指す。発電した電力は東芝ESSが

全量買い取り、卸電力（己社長）と連携し、取引市場や需要家に相対取引で売電する。電計画と需要計画を一致させる「計画値同時

東芝ESSは東芝エネルギーシステムズに同量業務」をSMFLみらいパートナーズに代わって行う。（川崎市幸区、新貝英